

比賣監紀行卷第11

目錄

橘逸勢女 文德實錄

福依賣 同上

請僧孤女 金葉集

供家貞女 今昔物語

南筑紫女 發心集

二系院讀波 非論語

舞女微妙 東鑑

平親清女 後拾遺集

坂東僧女 砂石集

児鴻若女

兜栗若女



比賣監行卷之四

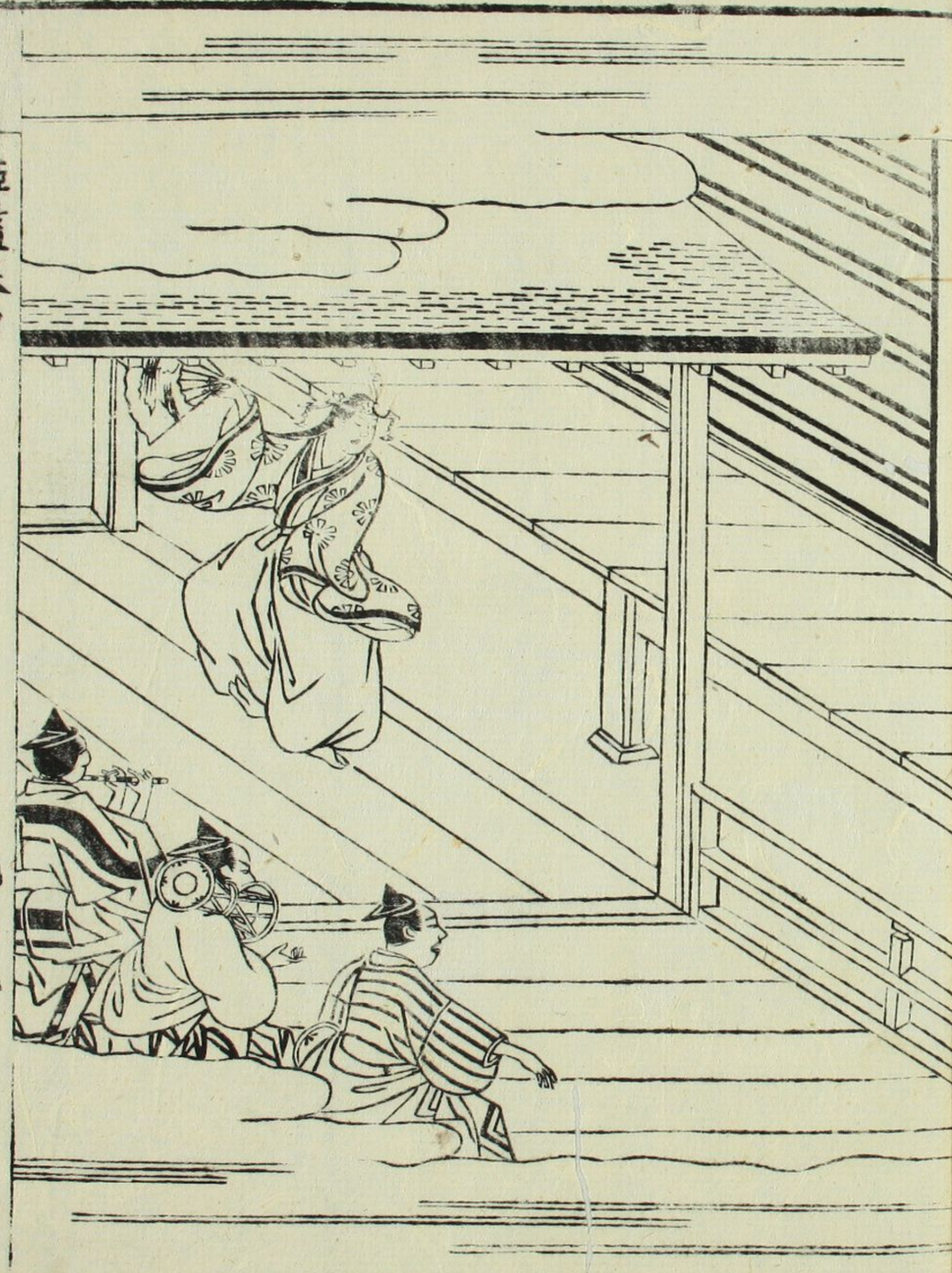
紀行并に 此巻の事この事記れす事なり

仁明天皇の御世は御馬持の連勢とひたりくまのひりの事なり時
 ようしあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 ぶがういぬ家とあつりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 むりつりあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 むらあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 むらあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 むらあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 むらあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 むらあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 むらあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 むらあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事
 むらあつり人なりまゝゆゑとてありて。仔細いづの事

比賣監行

九〇

くれ又がゆきばはしめけりぞげは降は白河れおりのま
 みもいひひそつりけりそむそのはれゆなりを
 或人淨いそくされ人の性も天理もこそかまり
 よ方のね歎よめかされが時いそむるむびぐり
 するおのづかも知よりけりんや又そのむむい
 れゆゆいそりかむもむもむもむもむもむも
 だ物いそりかむもむもむもむもむもむも
 天性のういそくむもむもむもむもむも
 里れ安いそりかむもむもむもむもむも
 又いらの伸れいそりかむもむもむもむも
 下り家たうとすつらのこまき春馬の夏もたらぬ
 仏のたて候とらむのむもむもむもむも
 一世のいそりかむもむもむもむもむも
 よ父母とらむとらむとらむとらむとらむ
 那いそりかむもむもむもむもむもむも
 さうりかむもむもむもむもむもむもむも
 して安ふのむもむもむもむもむもむも
 むもむもむもむもむもむもむもむも
 むもむもむもむもむもむもむもむも
 ありてめんらむとらむとらむとらむとらむ



又播磨の玉元栗の教之方町へつゝあま紀伊のふ女あり
 母にせぬ父におとあへていふにいふにいふにいふに
 家に入るといふにいふにいふにいふにいふにいふに
 ありあると紀伊のいふにいふにいふにいふにいふに
 ありその幸春たくといふにいふにいふにいふにいふに
 すまじき人紀伊のいふにいふにいふにいふにいふに
 女ありいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 いふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 いふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 いふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに

そよよ女いふにいふにいふにいふにいふにいふに
 どりすぞいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 まふもいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 人いふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 何いふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 いふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 かり或人いふにいふにいふにいふにいふにいふに
 つふいふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 男女いふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに
 の女いふにいふにいふにいふにいふにいふにいふに

あはれ親とありかたの歌りもあはれいふあはれいふに
 時の若きよりのあはれいふあはれいふに
 女がよむ世の女もいふ親のあはれいふあはれいふに
 てまゐりしあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふに
 おやあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふに
 らあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふに
 且つあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふに
 人のあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふに
 しくあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふあはれいふに

比賣鑑紀行卷四

比賣鑑紀行卷第五

目録

姜詩妻 後漢書

趙高妻 漢中士女志

唐史人 柳氏家訓

賀織女 厚徳録

陳若婦 列女傳

俞新之妻 古今川女傳

韓太初妻 同工

鄭義宗妻 唐書

附 吳震國卷五

歐陽希文妻

五傳書

附湯揮妻

林氏之存婦

侯果女妻

後日中記

之回村存婦

比賣監紀行卷第五

紀行舟六

いそぐ人の下あそきて男姑もあかりのゆりてはたふ
これをも明備れ父の親なり

漢の姜詩はその妻龐氏とてりおとく母よはて存あり半
もも妻れのをぞあそりてゆりけり母のよはたふとこのうり
あうりはたふとりりうぶその妻おとくはくもあそりてあ
あうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあ
そくうりけりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあ
あうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあ
あうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあうりあ

一かたはあつたるにさしつかへなくも若狭の誠なるに
あつたりしにさしつかへなくも

若狭の誠なるにさしつかへなくも

けがれ若狭の誠なるにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

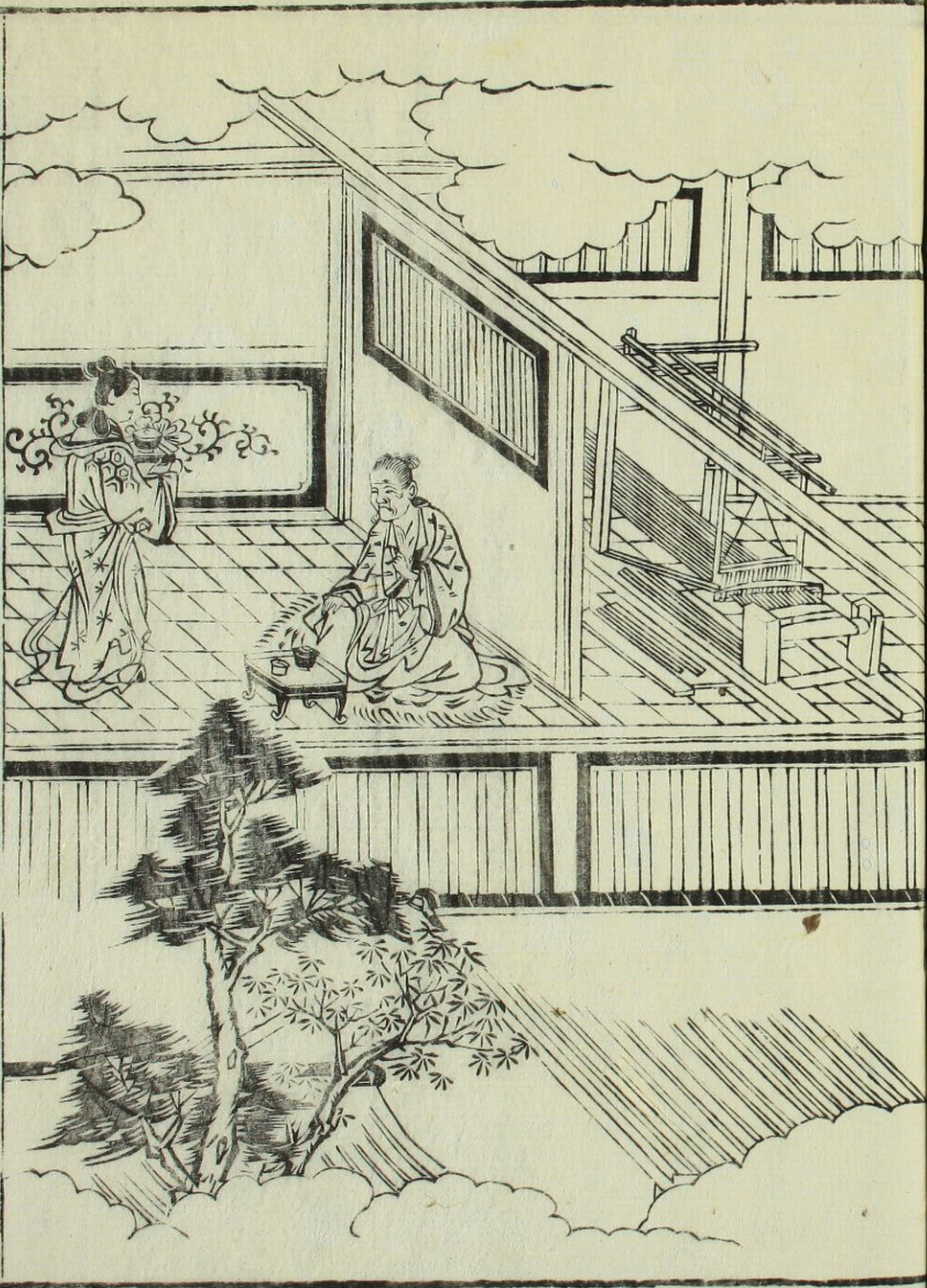
あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

あつたりしにさしつかへなくも

福よむもいづれはしるべき事なりとていづれもいづれも
 かくらばりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ままにいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 もそのたつたむらぎもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ぢうたつたむらぎもいづれもいづれもいづれもいづれも
 信義とていづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 えの命新之があらん因成のいづれもいづれもいづれも
 かゝるいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 て又いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも



つておれがよしとすそしりながらおれがゆりてぬき
びくたうしてさうぐさうかまをうりたは好業と
つくまうとあそゆたひよつりたをたれやうとぞと
まらうとてしとすといとまうとあまのいさか
かたふあつたうらも劉氏のいさかすまのいさ
らひ世とあひくちうとぞ日とあまのいさか
氏とあまのいさかすまのいさかすまのいさ
いあつたうとまのいさかすまのいさか
なりてさうとあまのいさか劉氏のいさか
そつり日とあまのいさかすまのいさかすま

もまのいさか劉氏のいさかすまのいさか
とまのいさかすまのいさかすまのいさか
ららららららららららららららららららら
あつたうとまのいさかすまのいさかすま
もがうとまのいさかすまのいさかすま
あつたうとまのいさかすまのいさかすま
もがうとまのいさかすまのいさかすま
あつたうとまのいさかすまのいさかすま
もがうとまのいさかすまのいさかすま
あつたうとまのいさかすまのいさかすま
もがうとまのいさかすまのいさかすま
あつたうとまのいさかすまのいさかすま
もがうとまのいさかすまのいさかすま
あつたうとまのいさかすまのいさかすま
もがうとまのいさかすまのいさかすま
あつたうとまのいさかすまのいさかすま

臣鑑

臣鑑

天祿とすまがうしひやく天祿とほりむべしむべしむべし
 のこかづびとていふむべしむべしむべしむべしむべし
 とがじろおなり人よあくまはまよがぢりし人若くは海とけき
 よぢりむべしむべしむべしむべしむべしむべしむべしむべし
 ゑと死にりもくちりぬる盛氏もゆりぬるのこくせ死に大
 事たりはむのむべしむべしむべしむべしむべしむべしむべし
 秘くも死にりむべしむべしむべしむべしむべしむべしむべし
 死にりむべしむべしむべしむべしむべしむべしむべしむべし
 うれむべし

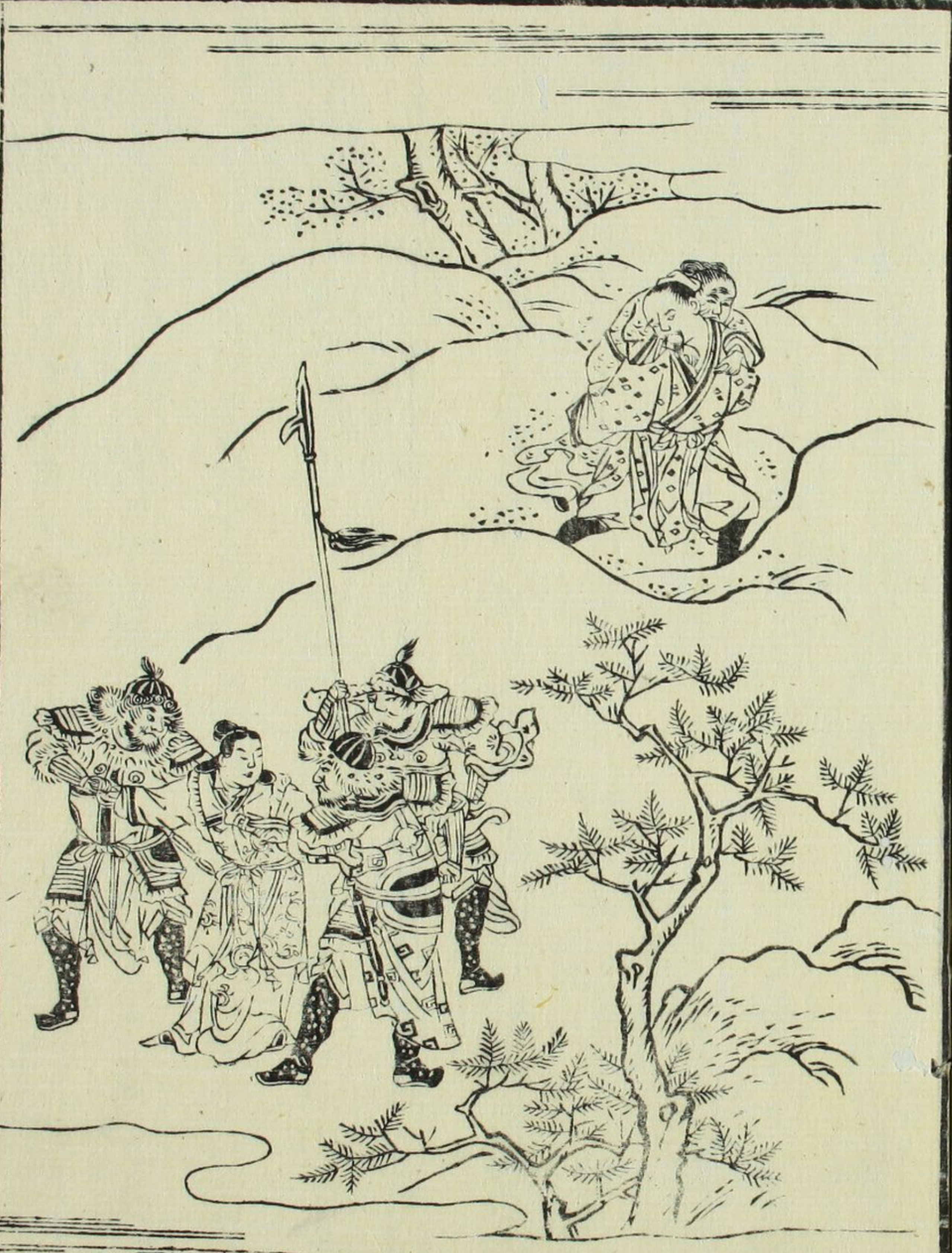
宋の政陽希文が妻の慶氏なり世のちをばよほしむのぞれ

ふとむべしむべしむべしむべしむべしむべしむべしむべし
 ののふむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ
 希文よむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ
 とむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ
 とむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ
 のむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ
 おむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ
 が妻の法氏なりあまむむむむむむむむむむむむむむむむ
 けして湯輝はその母とむむむむむむむむむむむむむむむ
 家よむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ

臣鑑

臣鑑

どのやうな事でもなかり多しづきとていふが樂よ
 とくこのやうな事でもぬすてよ入ありく法たづねよな
 とてあて我よきうりてあふきんつあびなうとてい
 まづ法たづねのうたあげきりし事いんひんかたは
 くれなひがふくうりてあていんひんかたは
 ころべしとていんひんかたは
 らぬとていんひんかたは
 慶たづね氏たづねのひとめも家たづねが妻もむしとていんひんかたは
 よめとていんひんかたは
 若たづね貝たづねのそかきりて死たづねといんひんかたは



こよまをこらよづらふらふら

林脩が其の周氏のめいれらりよはしくなるとあがめらるる

くしてそのまゝとあはめらるるのさうとせりおのこむら

らしてのら林脩のあまらりぬ周氏をとりとまのりぬ

しりやんあまらうとあまらくはる目とたさびの念とゆげら

らぐしてすめらりそのまむらりてのら徐氏のいよめと

妻よすんららるがそが又周氏は若しけらぬ周氏があらうよ

はゆたがあかり徐氏のえいのこをうして定たとあづくら

だてをよたらざりしる世のこまにあひくわいひ

のうまおけらよ盗賊せりこよ徐氏がやその子定たと

くみけるがまづくはよすてとて賊とあせらるら

くひをうてとれらるる母のまをうとらまづりて東のふ

よおらるるれらるがひもくうらりらでたがいのぬれゆ

あどらぬとて又盗賊よあひり徐氏のまをうして

よげあまらりてしあまらるるあまらるるあまらるる

とりてあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

よ定たとあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

臣監

臣

と物くしてさびくは秘蔵の月見成りたり。徐氏いさ
 いし三十をりかまびる人あましきくはひもれはらに
 こころもさびく周氏よ孝とつこめ定家くもさびくようも
 さびく女徳とくはる孝よなりはる時よ清業とく人定
 老よとをその師よさびくしてはとあをさるる潘
 氏ありてより徐氏よ孝とつこころ家のとくをさるれ
 て林氏ありはるよさびくをさるら徐氏ありやふよりり
 くあはくさびなりけり潘氏よりむらそむらふさびく
 みどりよと母のしきさるらよさびくもさるらよさびく
 こむらりかつかもさるら。秘書聖よあざれらく母の位は

おろりさびぬそのみひまごりす忠まごりらくさてはらさ
 位ちかたくのりりさるれは代のあな孝あひつぐらむ
 らいのさひくひなりと人かかづくあがめいひ
 ひしよがぬえ明大寺の時大和よ倭守果安とふ
 そのまぬくの孝けの名ありく世の人よさやゆれ
 ざり。妻もあめは流に流に氏直何くさびとん
 かり果安よおろりくこのらさるらあつたあびてその
 ちよさるりさるらさるらよさるらくはくはくさる
 たりとさるのさあさびさるらさるら中よ妻れらあらあさる
 て八人ありけりよさるらさるらさるらあなぞあひさるらさるら

らまぶるるへいごさげちりてつるのさきとちりつて
てふ後とゆらひ終ひく若菜と世よあつらふをなすらわ
その男が姑ありてよく話へ夫死してさうさうさうのり
ういぬとあつらひのりさうさうさうさうさうの端
人そのつらあらももふひひさくさくさくさくさうさう
らららららららららららららららららららららららら
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
食せもいさうなればありさうさうさうさうさうさうさう
ういぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ららら、此は備中備前備後三田村の氏之妻なるふりの妻

よ若婦ありと人さあつていさうさうさうさうさうさう
ていさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ういぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
らららららららららららららららららららららららら
とね風さあつたのならのさうさうさうさうさうさうさう
あつていさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

世の事と
終ひ

猶もあがらむしとありてすねしとていへば
 つもそのはとまのなりつひとあらん人のあれに
 くれはちしちまふしとてあがらむとていへば
 昔しその人のとまのまよひはあまの神た
 貴とれなりあらん痛しとていへば
 りしとていへばあまのまよひはあまの神た
 西のしとれなりとていへば
 あまのまよひはあまの神た
 かりしとていへば
 若かりしとていへば

あまのまよひはあまの神た
 ちとていへば
 よめなりしとていへば
 うらみなりしとていへば

比賣鑑紀行卷中五

